

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25360011

研究課題名(和文) HIV感染症に対してレジリエントな社会の知識・制度・倫理に関する研究

研究課題名(英文) Knowledge, Institutions and Ethics for Increased Social Resilience against the HIV Pandemic

研究代表者

西 真如(Nishi, Makoto)

京都大学・グローバル生存学大学院連携ユニット・准教授

研究者番号：10444473

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：エチオピアの南部州グラゲ県およびアジスアベバ市において、現地のHIV陽性者団体の協力を得て陽性者の生活の質の維持を困難にしている社会的・経済的および健康上の諸問題に関する調査を実施した。エチオピアにおいては抗HIV治療体制の展開により、HIV流行の拡大を抑えることに成功しているものの、HIV陽性者の中には困窮や孤立、併存症などの問題を抱えて生活を再建できずにいる者もいることが明らかになった。またHIV感染症に対してレジリエントな社会を構築するには、抗HIV治療薬の展開に加えて、多くの問題を同時に抱えた人々の生活再建のためのサポートが重要であることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：I conducted research on social, economic, and health issues that inhibit life quality of some HIV-positive people in Gurage Zone, Southern Region, and in Addis Ababa. The research was facilitated by two local associations of HIV-positive people in Ethiopia. Despite the fact that the government of Ethiopia provides HIV treatment for free of charge, my research revealed that some HIV-positive individuals had persisting difficulty in reconstructing their life because they faced multiple problems including economic destitution, social isolation, and comorbidities. Social support for HIV-positive people with multiple problems was identified as a priority issue to build social resilience against the current HIV pandemic in Ethiopia.

研究分野：アフリカ地域研究

キーワード：HIV感染症 経済的困窮 社会的孤立 併存症 抗HIV治療薬

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) サハラ以南アフリカ諸国では、HIV 感染症が蔓延した現在の状況が、長期にわたって継続することが見込まれる。これら諸国では近年、HIV 治療薬へのアクセスが改善され、陽性者の余命が大幅に延長したことで、結婚や出産を経験する陽性者が増加している。またその結果、カップル間の感染や母子感染のリスクへの対処が、これら諸国における公衆衛生上の重要な課題となっている。

(2) このような社会において、ウイルスに感染した者と感染していない者との間に、互いの健康への配慮にもとづく肯定的な関係性が構築されるかどうかは、そこで生きる人々の生活の質と社会の持続性に関わる課題である。またこれは、HIV 陽性者による社会運動や、陽性者のアイデンティティ・ポリティクスに注目する従来の社会学／人類学的研究が、十分に検討してこなかった課題でもある。

#### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、HIV 感染症に対してレジリエントな社会を構築するための知識、制度および倫理について明らかにすることである。ここで HIV 感染症に対してレジリエントな社会とは、HIV が蔓延した状況下で、感染の拡大を効果的に予防しながら、同時に人々の生活の質を保障できるような社会を指す。

(2) HIV 感染症に対する公衆衛生上の知識と、国家の保健医療制度とが、地域社会において人々の社会的関係を規定する倫理と有機的に結びつくことにより、HIV 感染症に対する社会のレジリエンスを高めることができるというのが、本研究の仮説である。具体的には、(a) HIV 陽性者のもつ社会関係が服薬アドヒアランスの維持に果たす役割、および (b) 地域住民が HIV 感染症に対処する知識や倫理を実践するために、政府の保健相談員が果たす役割について検討する。

#### 3. 研究の方法

(1) 本研究を遂行するため、上記研究目的の (a) および (b) に掲げた課題について、エチオピアのグラゲ県においてフィールド調査を実施した。加えて本研究に関連する学術会議に出席し、資料収集および研究報告をおこなった。

(2) なおフィールド調査の実施にあたっては、現地の関係団体・政府機関等の協力を得て、所与の研究期間内に調査を遂行しうる研究体制をつくった。また現地の陽性者団体等と事前に打ち合わせをおこない、HIV 陽性者への適切な配慮の下に調査をおこなった。

#### 4. 研究成果

(1) 初年度である平成 25 年度は、エチオピアのグラゲ県において聞き取り調査およびアンケート調査を実施したほか、査読付論文 2 編が学術誌に掲載された。また国際会議において研究報告を行ったほか、市民向け公開セミナーにおいて講演を行った。委細は次のとおりである。

エチオピアのグラゲ県において、現地の HIV 陽性者団体のスタッフに対する聞き取り調査を実施した。また同じ団体の協力のもと、陽性者の生活の質の維持を困難にしている社会的・経済的および健康上の諸問題に関するアンケート調査を実施した。その結果、正しく治療を受けていても経済的な困窮、社会的な孤立、HIV 感染症以外の疾患や障害といった問題を抱えているために、生活の質を維持することが困難な陽性者が多いことが明らかになった。他方で、同国政府の保健医療政策は、HIV 治療薬の服用だけでは解決しない問題を抱えた陽性者のニーズに応える手段を用意していないことも明らかになった。

エチオピアのグラゲ県において HIV 治療を受けている HIV 陽性者について、家族関係や服薬への周囲の理解、服薬を促す周囲からの働きかけといった社会的要因が、かれらの服薬行動にどう影響しているかを分析した論文が『社会医学研究』に掲載された。また同県で生活する陽性者に対する地域社会のサポートとヘルスワーカーの役割について論じた英文論文が African Study Monographs 誌に掲載された。

米国ボルチモア市で開催された米国アフリカ学会第 56 回大会において、エチオピアで生活する HIV 陽性者の生活の質という観点から、同国政府の保健政策を評価する内容の研究報告を行った。

生存学研究センター（立命館大学）主催の公開セミナーにおいて、NPO 法人日本アフリカ協議会の齊藤龍一郎氏らとともに、アフリカの HIV 問題に関する講演を行った。

(2) 平成 26 年度は、エチオピアのグラゲ県において聞き取り調査を実施したほか、国際学術集会において 3 回、国内学術集会・研究会において 2 回の研究報告を行った。委細は次のとおりである。

エチオピアのグラゲ県において、現地の HIV 陽性者団体のスタッフに対して聞き取り調査をおこなった。また前年のアンケート調査で、地域の HIV 陽性者の中には心身に障害を抱えているものがあり、HIV 治療だけでは生活の質の改善が困難であることが明らかになったことを踏まえ、グラゲ県で障害問題

を担当している労働・社会問題局のスタッフから、同県の障害政策について聞き取り調査を行った。加えて、HIV や障害の問題を地域社会におけるケアリングの文脈において捉えるため、グラゲ県農村の住民に対してケアリングに関する聞き取り調査を実施した。

国際人類学民族科学連合中間会議において、グローバル・ヘルスの展開やエチオピアにおける HIV 介入といった文脈における HIV 不一致カップルの経験に関する報告を行った。またオクスフォード円卓会議健康・看護・加齢・栄養部会において、複合的な健康問題を抱えた HIV 陽性者の生活の質という観点から、エチオピアの保健政策を評価する内容の報告を行った。また米国アフリカ学会において、エチオピアで HIV 陽性者として生きる女性のライフストーリーを「正義」と「ケア」というふたつの倫理概念に照らして分析する内容の研究報告を行った。

国内の研究会においては、エチオピアにおける HIV 介入が公衆衛生上の成功を収めた反面、HIV 陽性者の運動を支える社会的つながりの維持が困難になっている状況について報告した。

(3) 最終年度はエチオピアにおいて聞き取り調査をおこなったほか、エチオピアの HIV 問題に関する論文が公開された。また英語と日本語 で口頭発表をおこなった。委細は次のとおりである。

エチオピアのアジスアベバ市およびグラゲ県において、地域の HIV 陽性者に対する訪問ケア活動に関与している HIV 陽性者団体への聞き取り調査をおこなった。これら団体のクライアントの中には、経済的困窮や社会的孤立、併存症（HIV 感染症以外の疾患）といった問題を抱えている者が少なくないにも関わらず、HIV 陽性者団体が動員できる資源は限られていることが明らかになった。

国際的な HIV 介入の枠組みおよびエチオピアの公衆衛生体制は、抗 HIV 治療薬の提供に資源を集中する傾向にあり、エチオピアで生活する HIV 陽性者のうち、困窮や孤立、併存症といった問題を抱えた人々の生活を再建するために必要なサポートが困難になっていることを論じた論文を執筆し公開された。

(4) 研究期間全体を通じた研究の結果、エチオピアにおいては抗 HIV 治療体制の展開により、HIV 流行の拡大を抑えることに成功しているものの、HIV 陽性者の中には困窮や孤立、併存症などの問題を抱えて生活を再建できずにいる者もいることが明らかになった。また HIV 感染症に対してレジリエントな社会を構築するには、抗 HIV 治療薬の展開に加え

て、多くの問題を同時に抱えた人々の生活再建のためのサポートが重要であることが明らかになった。なお本研究の成果をとりまとめた英語と日本語の雑誌論文を現在執筆中であり、近く投稿予定である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Nishi, Makoto. 2014. "Risk, Knowledge, and Ethics in the Era of Global Health: HIV Interventions and Local Responses among the Gurage." *African Study Monographs*, 査読有, Supplementary Issue No. 48, 31-47

Nishi, Makoto. 2014. "Woman Who Cares, Woman Who Speaks: Narrative of an Ethiopian Woman with HIV." In *Ecologies of Care: Innovations through Technologies, Collectives and the Senses*, 査読無, edited by Gergely Mohácsi, 119-31, Osaka University

西真如, 姜明江 2013「感染症治療に服薬者の社会関係が果たす役割」『社会医学研究』査読有, 30 巻 2 号, 85-94

[学会発表](計8件)

Nishi, Makoto. "Reconsidering Therapeutic Citizenship in the Era of Universal Treatment" Presentation at the Minpaku Project Meeting: How Do Biomedicines Shape Life, Sociality and Landscape in Africa?, National Museum of Ethnology, Suita, Japan, September 25-27, 2015.

Nishi, Makoto. "Problems and Possibilities of Democratic Developmentalism in Ethiopia." Presentation at the 3rd IAS-JAAS Seminar, Institute of African Studies, Hankuk University of Foreign Studies, Yonjin, Korea, March 12, 2015.

西真如「公衆衛生の勝利と社会的なものの退潮 エチオピアにおける HIV 介入と陽性者運動をふりかえって」「HIV 感染症を主とする public Health の政治哲学的枠組みの分析」研究会, 龍谷大学大阪梅田キャンパス, 2015 年 3 月 8 日.

Nishi, Makoto. 2014. "Care, Voice, and Womanhood: Narrative of an Ethiopian Woman with HIV." Paper Presented at the 57th Annual Meeting of the African Studies Association, JW

Marriott Indianapolis Hotel,  
Indianapolis, USA, November 20-23,  
2014.

Nishi, Makoto. 2014. "Democracy,  
Primary Healthcare Institutions, and  
People with Multiple Health Burdens in  
the Developmental State of Ethiopia."  
Paper Presented at the Oxford Round  
Table 11th Annual Conference on Health,  
Nursing, Aging and Nutrition,  
University of Oxford, Oxford, UK,  
August 3-7, 2014.

西真如 「ケアする女性、声をあげる女性  
アフリカ在来知と新たなコミュニテ  
ィ」日本アフリカ学会第51回学術大会,  
京都大学, 2014年5月23-25日.

Nishi, Makoto. 2014. "Risk and  
Responsibility in the Era of Global  
Health: Public Health Interventions  
and HIV-Discordant Couples in Rural  
Ethiopia." Paper Presented at the  
International Union of  
Anthropological and Ethnological  
Sciences Inter-Congress, Makuhari  
Messe, Chiba, Japan, May 15-18, 2014.

Nishi, Makoto. "Between Epidemiology  
and Local Knowledge: Exploring the  
Role of Health Workers in Supporting  
Households Affected with HIV in  
Southern Ethiopia." Presentation at  
the International Meeting on the  
Future of Local Knowledge in a Changing  
Africa: Exploring the State of  
Institutions of Mutual Assistance and  
Social Integration, Kyoto University,  
Kyoto, Japan, June 15-16, 2013.

〔図書〕(計2件)

西真如 2016 「開発主義体制下のエチオ  
ピアにおける保健政策と HIV 陽性者・障  
害者のニーズ」『アフリカの「障害と開  
発」 SDGs に向けて』森壮也編, ア  
ジア経済研究所研究双書, 85-117.

西真如 2015 「健康格差とユニバーサ  
ル・ヘルスケア エチオピアを事例に」  
『国際学入門 言語・文化・地域から  
考える』佐藤隆・佐藤史郎・岩崎真哉・  
村田隆志編, 法律文化社, 231-236.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西 真如 (NISHI, Makoto)  
京都大学・グローバル生存学大学院連携  
ユニット・特定准教授  
研究者番号: 10444473